

電波資源拡大のための研究開発 平成22年度事前評価結果

案件名	実施期	評価会での主なコメント	評価点
次世代移動通信システムにおけるスマート基地局に関する研究開発	H22～24	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の妥当性、スケジュール、体制等に特に問題はなく、国際標準化を考慮しており、妥当である。 ・周波数有効利用への貢献は大きい反面チャレンジ的なテーマであり、技術検討の進捗管理が重要である。 ・自律分散エリア設計に関しては、ユーザー端末の情報を利用する点で魅力が高いが信頼性と安定性への配慮が必要である。 	3.9
700MHz帯を用いた移動通信に関する検討 ～移動体端末間連携無線通信技術～	H22～25	<ul style="list-style-type: none"> ・周波数利用効率の向上を図る本テーマの有効性は認められる。多重アクセス技術、プロトコル選択技術、干渉低減技術の課題は適切。 ・通信方式として必要な技術である。実用化を意識した議論が必須。 ・ハードウェア技術は既に確立されていると思う。実用化を見据えた検討が必要であり、技術試験事務での実施が望ましい。 	3.5
超高速近距離無線伝送技術等の研究開発	H22～24	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のユーザーニーズを考えると、必要性はきわめて重要であり、我が国の技術先導性確保のためにも必須である。 ・世界最先端の成果が得られるよう、実用化目標を明確にし、研究開発効率を最大限高め、投資にみあう成果を出す必要がある。 ・将来の周波数有効利用の面で、実施すべき研究開発である。 	3.5
近距離無線伝送システムの高度利用に向けた周波数共用技術	H22～24	<ul style="list-style-type: none"> ・今後重要な技術で産業界にもインパクトがある重要なテーマあり、安全かつ安定して実施出来ればその社会的効果はきわめて大きい。 ・人体や他の機器への影響については必ず問われる点であり、閉鎖空間におけるデータをとって安全性の確認をすべき。 ・すでに研究もすすんでいると思われるため、早期の実用化のためには研究開発よりは技術試験事務として必要な案件である。 	3.6
高速・高品質な無線通信実現のための半導体素子レベルの低ノイズ化技術の研究開発	H22～25	<ul style="list-style-type: none"> ・チップ内における電磁雑音制御はこれから高速化に向けて必須な技術である。 ・本テーマはLSIの開発プロセスにもインパクトを与えることが予想され、国際標準化にも寄与するものと期待できる。 ・低ノイズ化のメリットと素子の特性劣化というデメリットのトレードオフについて検討が必要。 	3.8